



水の安定給水にむけて

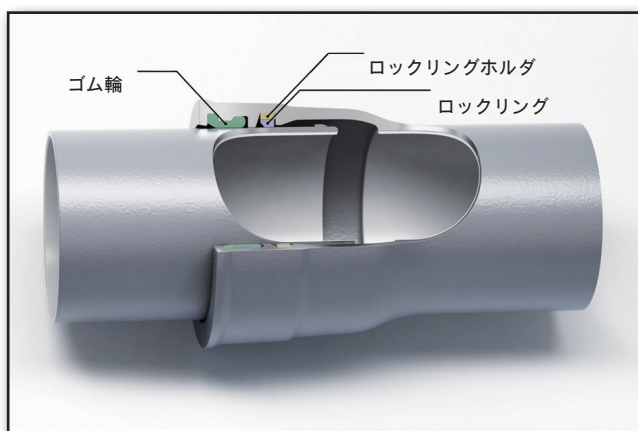
●防災への取り組み

耐震化工事（管路）

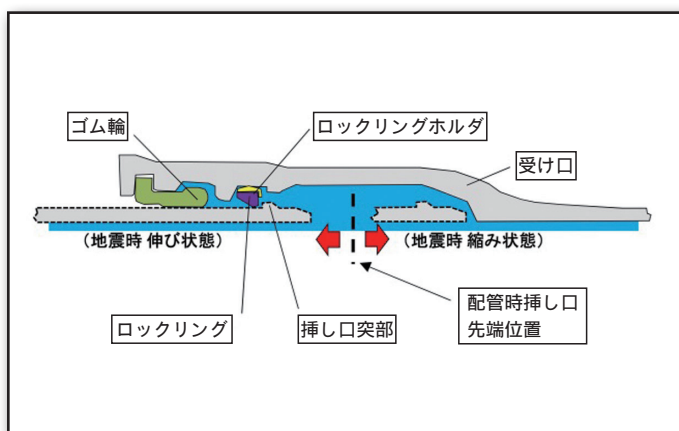
災害時にもお客様に確実に水を届け、消火用水を確保し、更に、水の流出に伴う二次災害を防止するため、老朽管更新に併せ管路の耐震化を進めます。

全ての管路を耐震化すると、膨大な事業量となってしまいます。そこで、管路の用途や重要度を考慮し、投資効果が早期に発揮できるような耐震化を進めます。重要度の視点は、拠点病院や避難所等に至る重要路線、老朽化幹線、系統間連絡管などです。

重要管路に使用する主要な耐震管は、先の東日本大震災で地震による被害0箇所の実績を持つ耐震継手ダクトイル鉄管（下図参照）で柔構造かつ鎖構造継手で、地盤変位に対して管路が鎖のように伸縮・屈曲し、最終的にはロック機構（φ300なら耐力90t）が働き、継手の離脱を防止する構造を有しています。



ダクトイル鉄管（GX形）



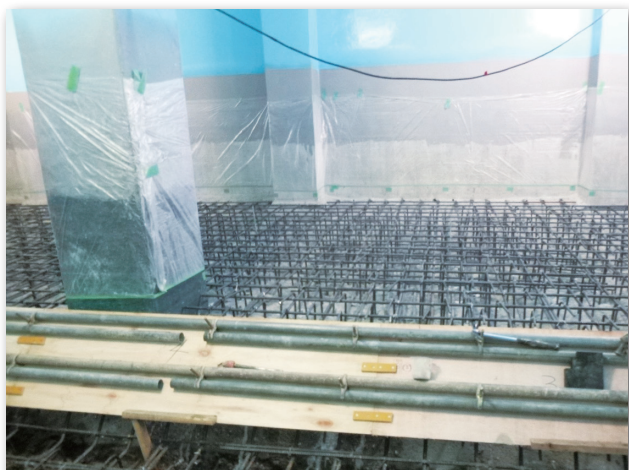
継手構造・性能説明図

耐震化工事（施設更新）

本市では、大規模な震災の際にもライフラインを確保できるよう、施設の耐震化をすすめています。

ロクハ浄水場では、平成21年度に関係施設の耐震診断を実施し、十分な耐震性を有していないと診断された施設について、順次補強工事を実施しています。平成25年度から平成27年度にロクハ浄水場旧館、平成28年度から平成31年にロクハ浄水場新館の耐震補強工事を実施し、施設の強靱化を図ります。ロクハ浄水場システムの配水池については、平成25年度末時点で耐震化率が100%となっています。

北山田浄水場は、平成26年度に耐震診断を実施し、十分な耐震性を有していないことが確認された箇所については、耐震補強工事などにより耐震性の向上を図ります。



耐震補強工事の様子



ロクハ浄水場旧館浄水池（耐震補強完了後）

給水訓練

大規模な災害や水質事故、水道施設に係る事故等が発生した場合、市民の飲料水を確保することはとても重要です。滋賀県健康危機管理実施要綱では、隣接する都市が相互に応援協力を行うこととしており、平成25年度からは大津市、高島市、栗東市の3市と合同で防災訓練を行うなど、市の総合防災訓練とは別に積極的な訓練の実施に努めています。

主な訓練内容として、被害状況の報告、応援要請、応援要請受理などの情報伝達訓練と、給水ポイントに給水車を派遣しての給水訓練を行っており、安定した水の給水にむけて迅速かつ適切な給水活動が行えるよう、実践を想定した訓練内容としています。



滋賀県総合防災訓練



4市合同訓練

